

独断と偏見で選ぶオススメ  
洋画!!

bf-ask

## まえがき

---

この本で紹介する映画は著者の完全なる**独断と偏見**で選んでいます。何か根拠があるわけではありません。単なる一映画好きとして同じく映画が好きな人に自分の好きな映画を紹介したいだけです。

この本を読んで紹介されている映画を観たくなって頂けたら幸いです。

## 不死身の男「ジョン・マクレーン」

アクション編で最初に紹介する物語、それは.....それまでの筋骨隆々で超人的な能力を持ったヒーロー像をぶち壊す、人間くさくずば抜けて強いわけでもないただのおっさんが「刑事の勘」と頭脳を駆使してテロリストと戦う物語。タイトルはそう！言わずもがな「**ダイ・ハード**」です。

この映画は1988年に公開されました。主人公である最も不運な男、絶対に死なない男をブルース・ウィリスが演じました。

↓ナ

カトミビルのモデルとなった20世紀FOX社のビル

あらすじ

クリスマス。夕刻のロサンゼルス空港に降り立ったジョン・マクレーンを出迎えたのは、妻であるホリーではなく黒人運転手のアーガイルだった。

リムジンの中でマクレーンは、自分がニューヨーク市警察の刑事であること、ホリーは西海岸へ進出した日系企業に職を得て子供たちと共に引っ越したこと、成功した妻が竣工中の超高層ビルで開かれるクリスマスパーティーに夫を招待したことを語ります。

到着したナカトミ・ビルで、久々に会うホリーと喧嘩をし、落ち込むマクレーン。一方、別のフロアでは10数名の男達がビルに侵入し、警備網を容易く破りビルを占拠、シャッターを下ろし電話線を切断します。



パーティー会場に乱入した男達のリーダーはハンス・グルーバーと名乗り、全社員を人質に取ったと宣言する。幸運にも強盗グループから逃れたマクレーンは、外部との連絡を遮断され応援も望めない中で、携帯していた拳銃1丁と刑事として鍛えた頭脳を武器に死闘を繰り広げるのです。

この映画の素晴らしいところ.....それは**伏線が満載**なんです！

伏線とはある状況下でお決まりのセリフや行動をとったり物を落としたりすることがその後の状況に影響を与える行動のことです。

この映画はその伏線がとにかく多いんです！！

その伏線を探しながら見ることで何度見ても新しい発見があるんです。

伏線だけではなくマクレーンとテロリストのテンポの良いブラックな会話も見どころの一つです。

命のやり取りをしているとは思えない皮肉を含んだジョークの意味に後から気がつくこともあるぐらい一回では魅力を把握しきれない映画です！

## 受け継がれる手紙

---

「プライベートライアン」

この映画はどちらかというアクションではなく戦争ドラマに分類されますが、冒頭20分にわたるノルマンディー上陸作戦のアクションシーンが強く印象に残るのでアクションの分類で紹介させていただきます。

あらすじ

「史上最大の作戦」と呼ばれるノルマンディー上陸作戦。掩蔽壕の機関銃座から猛烈な銃撃を受けながらもオマハ・ビーチ上陸作戦を生き残った米軍第5軍第2レンジャー大隊C中隊隊長のミラー大尉（トム・ハンクス）の下に、米第7軍第101空挺師団第506パラシュート歩兵連隊第1大隊B中隊に所属するジェームス・ライアン上等兵（マット・デイモン）をノルマンディー戦線から探し出し無事帰国させよ、という任務が下った。ライアン家の4人兄弟はジェームス以外の3人の兄弟が戦死し、彼が唯一の生存者であった。息子たちの帰国を本国で待つ母親に息子全員の戦死の報せが届くのはあまりに残酷だ。たった一人だけでも生かし、母親の下に息子を返してやりたいという軍上層部の配慮だった。ミラーは兵士一人を救出するために彼の部下の命を危険にさらす任務に乗り気ではなかったが、危険極まりない敵陣深く進入し、ジェームス捜索を始める。ストーリー自体は完全なフィクションであるが、442連隊戦闘団がテキサス大隊を救出する実話をモチーフにしています。

さてここでタイトルに戻りますが、この映画の中で人と人との情のバトンとして登場する「カパーゾの手紙」です。

ライアン上等兵を救うために組織された8人の救出部隊の中にカパーゾという男がいました。カパーゾは作中で父親にあてた手紙を書きます。しかしカパーゾは狙撃手に撃たれてしまいます。カパーゾはなくなる前にウェイドに父親あての手紙を託します。ウェイドはその血の付いた手紙を教会で書き直すのですが、その手紙にはカパーゾが家族にあてた心からの感謝の気持ちが書かれているはず……。カパーゾのことだから、もっとラフな感じで苦しい気持ちなど微塵も出すことなく書いてあったかもしれないとウェイドは苦悩します。しかし血がついたまま出すことは出来なかった。

何故なら、出血して苦しみながら死んでいったことを愛している親には伝えたくなかったから……。

その後ウェイドも戦死し次々この手紙は仲間の手を渡っていきます。死んでいった仲間の思いを乗せて……

このように単に戦争のむなしさを伝えるだけでなく、人と人とのきずなも描いた映画です！